慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	看却せられたる経済学上の緊要問題
Sub Title	
Author	三邊, 金蔵
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.5 (1909. 6) ,p.635(93)- 645(103)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090601-0093

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

て特に組織せられたる委員會の保護主義の提案に基き千八百八十七年新關稅法を制定せり。此法律は保護主義を表明すること最も著しものにして平均稅率は實に六割の高きに達せり。

同法の最も直接の結果は佛伊關稅戰爭にして同戰爭の爲め兩國の損失は實に六〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗の巨額に達せりと云ふ。間もなく反動は起り南部地方の農民は漸く自己が政府に强請したる施設の不適當なりしを覺りて之を悔ふるに至れり。玆に於て伊國は止むを得ず千八百九十二年に至り獨、墺及瑞西の諸國と通商條約を協定し之によりて其稅法中峻酷なる部分を緩和せり。千八百九十九年に至り佛伊間に新條約は締結せられ、絹織物及び絹製品を除きて互に最惠國條款の特典を與ふることを協定せしも兩國間の通商は豫期したる程發達するとなかりき。伊國の保護政策が其國內工業の活況を維持するの效力ありしは一般に認めらるゝ所なるも、全般の上より觀察して果して好良の結果ありしや否は屢々激論の種となれり。左れ國財政の現況上保護政策を拋棄するは到底不可能なるは明らかなりとす。

七 其他の諸國

其他の歐洲諸國に於ても亦保護主義は再び勢力を得たるもの、如し。西國は千八百七十七年以來絕對的に保護主義を採用せり。葡國は近頃其外交代表者に對し通商條約締結の談判に際しては現行關稅率より一割乃至三割の減率をなすことを得るの權能を與へたりと雖も其保護主義者たるの點に於ては敢て從前に異なることなし。瑞典諾威は千八百八十八年以來保護主義を採用し瑞西も亦千八百八十七年乃至千八百九十一年以來は穩當なる保護主義者なりとす。

和蘭及び白國は今尙其半世紀以前に樹立せる自由貿易の主義を維持するも彼等と雖も今や絕對に其主義に固着すること能はざるに至れり。獨り本年の初頭より實行せられたる丁抹の新關稅法は從來の法律に比して一割五步乃至二割の減率を示せるど同も此場合に於てすら減率は主として原料品若しくは半製品に關するものなるを以て之を以て自由貿易主義が其本來の性質に基きて勝利を博したるものと云ふことを得ざるなり。（完）

看却せられたる經濟學上の緊要問題

三邊金藏

右は「十九世紀」所載マルボク氏の論說を譯せるものなり

（一） 眞理闡明補助としてのカールマルクスの謬說

正統派基督敎會の信仰個條は異端邪說を辯駁する必要に驅られて其精密を加へたりとは吾人の屢聞く所にして亦た首肯するに足る說なり蓋し謬說一定の形を取るに至りて後初めて深く其泉源に溯りて其由來を探り然る後之に代ふるに明確眞實なる正義を以てするの必要を生ずればなり。

夫れ然り然れども如斯は啻に神學に於てのみ然るにあらず經濟學に於ても亦た其例を見るなり、經濟學の初めて特殊の位置權威を得て所謂正統派的若は社會主義者の非難して或は資本家的と呼び或は市民的と稱する所の形體をなすに至るや其說明者は恰かも應用化學を研究する者が自然の秩序は自然の秩序として其儘に之を措くが如く產業制度は旣成のものとして深く之を研究せず唯其下に生じ來る問題に對して解答を與ふるを以て其主たる目的となしたりき、然れば實際問題に對しては彼等の爲す所能く其目的に添ふて餘あれども一度彼等が斯く無頓着に看却し去れる根本問題に亙りて論爭を惹起し彼等が必然的のもの永久的のものとなせる者は偶發的一時的の者なりとし正統學派經濟學者が立てたる原則其ものより直ちに彼等が夢想だもせざりし結論を繹き來る異端說の現れ來るあらば彼等の論據は自ら亂れざるを得ざるは自明の理にして實に又たアダムスミスの富國論出でより後約百年カールマルクスが其嘆美者が仰ひで以て今日科學的社會主義の名稱の下に種々なる狀態

を採りて現るゝ經濟學上の合理的異端說の基礎をなせる者なりと誇稱する彼の資本論を著すに至つて具體的の事實となりて出現せる事實なりとす。

マルクスが依つて以て其名を成せる特殊の學說は一個煽動者たる域より其頭角を脫して眞率なる思想家と稱せる可き要請を有する今日の社會主義者の多くに依りて棄却せらる而して其棄却せらるゝは如何なる負目の批評を以てするも到底看却し得ざる謬說を含むが爲めなるべしと雖も然も彼の資本論は歷史的興味以外他に亦た採る可き處なくんばあらず實に資本論は中に一個不拔の眞理と一個の謬說とを包含し兩者何れも社會主義者が正統派經濟學者によりて說明せられ擁護せらるゝ經濟組織を攻擊するに當りて有力なる武器となせる所のものなりとす而して又た正統派經濟學者は幾多微細なる點に關しては社會主義者を駁して能く其功を收めたりと雖も然かも上述の眞理を其適所に收めて他方に積極的主義を立し謬說に代ふるに確說を以てし社會主義の枝葉を斷つに止らず一步を進めて其根底より之を打破し去るの擧に於ては今日に至るも未だ能くせざるのみならず彼等は此種の企圖を明瞭ならしむるに足る程に一般に認識せられ且つ適當なる意義を有する學語すらも有せざるなり。

夫れ然り然らば吾人が社會主義を評して合理的の學說としては缺點あり眞の科學にあらずして似而非科學なりと云ふは同時に同一の非難を正統派經濟學に對しても加へつゝある者なりと知る可し否吾人が正統派經濟學を目して似而非科學なりと云ふは絕對的に然りとなすにあらず吾人の眞意は現狀の如き缺點多き科學なりと云んと欲するのみ蓋し正統派は其論ずる從たる現象の說明に於ては十分の成功を收めたれども斯る從たる現象の由つて生じ來る主たる事實に就ては何等の言ふ所なくして直ちに之を常識の臆斷に委し去りて常識其ものは其が倚つて立つ所の假定に疑なき限りは十分信憑し得可きも一度規律整然たる攻擊に會ふときは自らに防ぐによしなきの事實は毫も之を顧みざれば

なり然ればマルクスが社會主義の爲めに其策源地を此方面に求め臆斷的にして無防禦なる根本問題を提げ來りて論爭の中心點となせるは誠に其所なりとす然れどもマルクスが說き得て能く其當を得たるは單に敵手の弱點を指示したるのみに過ぎざるが故に正統學派は玆に其氣力を恢復し更らに大なる力を得るの機を握りたる一方に於てマルクスの缺點は明確にして固着的なるが故に健全なる科學は此間に自ら賴る可きの道を發見し得可きなり吾人は之より之等の概說を事實に徵して證明する所あらんとす。

(二) マルクスの學說及び之を駁する正純派經濟學の無氣力

吾人若し普通の經濟學教科書を取りて之を閱すれば開卷第一凡の富は土地勞力資本の三者に依りて生產せらるゝものなりとの命題に逢着すべし而して其所謂土地とは自然の物質勢力を併せて之を稱し其所謂勞力とは筋肉の活動を起す一種の心力を稱し資本とは過去に於ける勞力の生產物にして將來に於ける勞力の產出力を增加せんが爲めに貯蓄せられたる者を指すものなることを發見すべく更らに進めば之等三個の生產要素は各其を有する人々の階級と同一視せられ玆に議論一轉して漸く人生の實際的方面に互り來るを見る可し卽ち土地を地主と勞力を賃銀勞働者と資本を資本家と同一視し是等の人々は各自皆生產者なるが故に生產物の分配に參與するなりと論及し此所に筆を轉じて分配の方則を論じ來ると共に直ちに價値論に進入するを見ん、今一團の生產者ありて彼等自らは殆んど消費するとなき一種の貨物例へば化學用品の如きを生產したりとせよ然らば此生產物の全額は彼等にとりて富たるべしと雖も其富たる割合は此生產物の容積數量によりて決せずして此生產物に代へて得らるべき彼等の生活品若くは享樂品となるべき物の割合如何によりて決せらるべし然れ雖此生產者の團體が其生產せる化學用品の幾何かに

代へて得る食料品衣服燃料煙草酒類及家屋其の高は何に依りて決定せらるゝや此問題に對する答の詳細は區々にして議論歸一する處なきが故に今此所に之を擧ぐるを得ず吾人は唯正統派經濟學者が一般に抱持する所を知れば足れり彼等は曰く土地は生產資料を供給し資本は補助を與ふ而して交換せらるゝ生產物に對しては比較的同一の需用あるが故に一物品は他物品と其各に投ぜられたる勞力の多寡の割合に應じて交換せらる可しとマルクスが認めて以て市民的經濟學者の主將の一人となせる彼のリカルドは曰く投ぜられたる勞力こそ結局唯一の決定要素たるなれ地主は土地を生產的勞働の爲めに投じ資本家は資本を生產的勞働の爲めに借す而して彼等が斯く投入せるものゝ多少に應じて生產物の分配に與を得るは唯勞働者が彼等より得たる土地資本を利用するが爲めに外ならずと。

以上はマルクスが彼の著を公にせしヴィクトリヤ女皇の御世の央頃經濟學界を風靡せし經濟學者の說く所の大要にして今日に於ても猶は正統派の流を汲める學者が主張する說たるなり。

夫れ然り然らばマルクスが此說に對して論ずる所は如何彼は勞力こそ價値の尺度なれと說くリカルドの說と價値は富の尺度なりと云ふ事實を捉へ來りて貨物の價値は之に投ぜられたる勞力の多寡に應じて決定せらるとせば何故凡の價値若は富は勞働者の手に歸せざるやとの疑問を提げて正統派經濟學者に對抗せり彼は曰く地主及資本家が彼等の得る所を得るは現今の實際に於て偶〻土地及び資本が彼等の所有となり居るが爲ならんのみ然れ雖借問す彼等元來土地及資本に對して何の權利を有するやと而して之に對する答は現在の土地の多くは正當なる代價に依りて購れたるものなりと云ふにある可ければ彼は直ちに議論の根底に入りて曰く土地の代價として仕拂れたりと稱する資本其物は抑も如何にして生ぜるやと質問を重ね來りて此所に其議論を資本の一點に歸せしめ資本は如何にして生ぜるか資本家は如何なる權利により如何なる手段によりて資本を所有するに至れるやと直進

せり、此挑戰に對して正統派經濟學者は答へて曰く資本は禁慾報酬なり資本は過去に於ける勞働の生產物にして之を生產せるものが直ちに消費せずして遠慮能く之を貯へ置けるものなりと之れ彼等が與たる唯一の答にして今日に於ても猶は反覆せらるゝものなりとす然れども借問す禁慾果して無より有を生ずるの力ある可きか書籍を燒棄てなばライブラリーはあらざる可し然れども書籍を燒棄せずと云ふ一事直ちに書籍の出來せる原因となる可きか否如斯答は殆んど痴呆の言のみ於是乎マルクスは近代の趨勢たる資本集中の事實と資本を有する者が假令嘗つて自ら勞働に從事せりとの要請を有すとするも彼等の資本が著しく增加せるは自ら勞働をなさゞるに至れる後にありとの事實とを捉へ來つて更らに問ふて曰く若し凡の富（其消費せられたると貯蓄せられたるとを問はず）が其中に投入せられたる勞力の割合如何によりて或は大となり或は小となるとせば如何なればこそ貯蓄せられたる富は消費を止むると同時に勞働をも亦た廢せる人々の手中にありて增殖し行くかと之れ卽ち彼が今日の正統派の學者に對して提出する謎語にして又た彼が自ら其著資本論に於て解答を與へんとせし所のものなりとす彼は此著に於て自ら彼が攻擊する思想家の一團の有する推理上の語謬よりも更らに甚しき論理上の誤謬に陷りたり然れど彼は之等の思想家が全く等閑に附せる一大眞理を闡明しぬ然れば若し健全なる經濟學出でゝ此眞理に眞正なる說明を與へて之を適所に置き以て其一部をなさしむることあらばマルクスの經濟學に貢獻する所や頗る大なりと云はざる可からず。

然らばマルクスの闡明したる眞理とは何ぞや曰く歷史的進化の方則を經濟學に應用せること卽ち之なり彼は曰く若し吾人にして資本は何故近世に於て其產出者たる勞働者の手裡を脫して非勞働者の獨占に歸するやを了解せんと欲せば吾人は禁慾說の如き膽言に耽り居る可からざるは勿論更らに吾人の注意を現代に限るをやめて過去に溯らしめ其處に滿足なる解答を探らざる可からず蓋し正統派

經濟學者が唯一の制度となす此雇傭者と被雇傭者資本家と賃銀勞働者とが對立する現代の制度は實は全く近世的の現象にして歴史的原因により現代とは非常に異なる事情より發展し來れるものに外ならざればなり吾人は敢て近世的の現象なりと云ふ何となれば此制度が初めて歴史の上に其幼芽を示すに至りしは假令封建制度の破壞と時を同ふすと雖も其著しく色彩を添へ來りしはジョウジ三世の御代以後の事に屬するは勿論當時は唯英國にのみ限りたる現象にして英國より延ひて他國に及せるは更らに其後に屬すればなり然れば若し吾人にして資本主義の現象を解せんとせば如何にして資本主義は封建制度より發展し來りたるかを歴史的事實として考察せざる可からず否實に然るのみならず吾人の知識を完全ならしめんが爲めには更に其以前に溯りて封建制度其ものは如何にして其以前の制度より發展し來りたるかをも亦た考察せざる可からざるなり。

吾人今富の唯一の生産者は勞力なりとの事を記憶して人文史を概觀すれば古より今日に至る間に於て勞働制度に奴隷制度徭役制度及賃金勞働制度若くは資本制度の三種ありて社會進化の爲に生じ個人の意思願望とは全然交渉を有せざる歴史的原因の爲めに順次に一より他に推移したるを見ん而して又た此三個の勞働制度は何れも社會に於て多數を占むる勞働者が常に少數上級者の意思に服して行動せる點に於て互に相類すると雖も其服從の内容に至りては互に相同じからず一制度より他制度に移るに從つて變化し其間に自ら進化の跡を示すを見ん卽ち奴隷制度の下にありては勞働者は卽ち主人の動産と同一視せられ之に向つて衣食住の資料を請求し得しの外何等の權利をも有せざりしが降つて封建制度の世となり徭役制度の行るゝに及びては彼等は稍獨立の地位を得ることゝなれり然れば若し彼等にして職工工匠の如きならんか彼等は假令其從事し得可き職業は其家系身分等に依りて限定せられて自由に之を變ずるを得ず彼等の製出する生産物の一部は人頭税の名の下に

其上長者の爲めに奪取せられたりと雖も然かも彼等の有する生産用具は完全に彼等の所有權内に屬し自己の欲するが儘に之を用ゆるの自由を享有せり若し亦た彼等にして耕作者の如きならんか彼等は自己の犂鋤を加ふる田圃よりの生産物に對して所有權を有して缺くる所なかりき唯彼等は其借地を去つて自由に他處に移ることを得ざりしと一定時に於て其上長者の爲めに勞働するの義務を負ひし點とに於て其自由を拘束せられしのみ、如斯勞働者服務の内容は奴隷制度より徭役制度に移るに從ひて漸次に進化せりと雖も此兩制度の下に於ては資本は未だ其が今日演ずるが如き役目を演ぜざりき其今日の如くなりしは資本制度の世となりたる後に屬す。

然らば資本制度なるものは如何にして發生するに至りし乎マルクスは斯く問ひ來りて自ら答へて曰く資本制度は其初めに於ては全く地方的産物に外ならざりき資本制度は英國に於て種々なる地方的事情に促されて發生せるものなり彼の薇薔戰爭の結果封建的大家族の瓦解に歸したるが如き事實又は牧羊業が農業に代りて遽に勃興したるが如きは何れも此事情中の主もなるものなれども今暫く之を措きて論ぜんに兎に角諸種の事情の爲めにヘンリー八世の頃英國に一の新しき社會階級發生せり此新社會階級は生活の爲めに勞働するの必要あるも而かも其勞働を遂行するに不可缺要具を有せずと云ふ不幸なる人々の一團にして近世の勞働者階級の胚種たるなり詳言すれば生産の爲めに働かざる可からず然れども生産用具は之を缺く故に不得已他の資産階級に趣きて其好むが儘の條件に服しても之を借り來らざる可からずと云ふ境遇の下に立つ近世の無資産階級は實に此新生の社會階級の末裔たるなり要之近世の資本制度は此生産用具と生産者との分離なる未曾有の事實を以て其本質となすものにして此結果生産用具所有者は之を勞働者に貸與して其使用料として生産者より生産者が其心身を維持するに必要なる部分以外の生産物を絞取するに至れるなり然れどもヘンリー八世の頃

は此分離未だ其端を開きしのみなりしが故に其勢ひ盛んならざりしが降つて十八世に至るに及びて英國に於ては遺憾なく發達し次で他の文明諸國に波及するに至れるなり、然れども之れが爲めに勞働者は卽ち生産者たりとの事實は變ぜざるなり資本の利子利潤は依然として勞働者の勞働に依りてのみ生じ來るなり蓋し利子も利潤も共に勞働者より奪はれたる勞働生産物の名稱の外ならざればなり。

如斯勞働者は資本制度發生の爲めに多くを失へり然れども彼等は其間に於て封建時代に未だ曾て有せざりし可動性を得たり此可動性に依りて彼等はやがて其賠償を得るに至らん今日既に善からざる彼等の經濟的狀態は今後益々惡より最惡に趨く可く彼等の資本によりて誅求せらるゝ事は日に益々其勢力を加へん然れども共通の不幸は共通の階級意識を發生助長せしむるの因となり勞働は相結びて資本に當り玆に其自身の用具を再び其自身の手裡に收め遂には奴隸制度に代ゆるに封建制度を以てして得たる獨立と封建制度に代ゆるに資本制度を以てして得たる自由とを併せて己が有となさん事玆に至らば社會主義の目的とする新社會は成りて吾人は嘗つて封建制度が奴隸制度より資本制度が封建制度より進化發展し來りたるを見たるが如く社會主義の世界が資本制度より進化し來るを見んと。

以上は之れマルクスが正統派經濟學者の說に對して起せる大膽なる學說の大要なり之より吾人は簡單に此說に含またる眞理と誤謬とを考察し然る後更らに正統派經濟學が兩者より學び得る點に就きて考察する所あらんとす。

(三) 自ら解決を與へざる根本問題を指示せるマルクスの學說

マルクスの進化說が其歷史に亙る幾多詳細なる點に於て正確を缺くの事實は之を指摘するに難からず彼が人類の歷史に就きて區分し來れる經濟階段は彼が想像せるが如く然かく判然たるものにあらず見よアブラハムが銀と云ふ資本を以て土地を購ひ商業好きのテイラの皇子が船舶と云ふ資本を有したりし事實を之れ豈に吾人の言を證するものにあらずやマルクスは又た奴隸制度を以て其出發點となせりと雖も之れ奴隸制度以前に或る狀態の存せるありて奴隸制度を生めりとの事實を看過せるものにして今吾人が論ぜんとする點なりとす、然れども豫め彼の爲めに辯じ置かざるべからざるは彼の經濟史に關する研究は凡の批評に拘らず大體に於て能く事實と合せるのみならず其十九世紀の經濟思潮に致せる貢獻は頗る大なりとの事之れなり、實に彼の說は想像としては極めて正確にして能く實際の目的に添ふて足らざる所なし唯其缺點とする所は其が一個の想像に止まりて其以上に出る所多からざる點にあるのみ彼は現象に序次あるを示したれども斯る序次を生ぜしむる勢力の何たるかに就きて說く所なかりしが故に幾多の未決問題を生ぜしむる事となれるなり。

是等未決の問題こそ健全なる科學の解答を俟つ所なるが是等の問題中には何人と雖も少しく思慮を回らせば其常識より判じて容易に其解答の困難なるを發見し得るもの少からず今其中に就きて主要なるものを擧ぐれば次の如し。

今日の生産法を考察し來りて之を遠からぬ昔に行はれたる生産法と比較する世人は自己の智力を超絕する科學上の知識及發明が殆んど凡の貨物の生産に參與するを見るべきが故にマルクスが依つて經濟史の全過程を說明せんと求めたる原則卽ち勞力こそ唯一の生産力たるなれと云ふ原則に對して疑を挿まざるを得ざるべし彼にして更らに深く省察せんか彼は若し凡ての貨物は其中に投入せられたる勞力の多寡に應じて富たるならば勞力の投せられたる物にして富たらざる物有べからずとの結論に到達すべし然かも彼は觀察と經驗によりて最も習熟せる種類の勞力が何人も之を購はんと欲せざる貨物に投入せられたるの事實あるを知る於

是乎世人は曰く斯の如きは之れ價値は勞力のみに依りて決せらるゝものにして他の何物も之を決するの力なしとの定則の不完全なるを示すものにあらずして何ぞやと。

常識より來る駁論は恐く此所に止まらん然れども吾人は是よりして更らに怖る可き抗論に到達し得るなりマルクスは三個の經濟階段を研究して能く其相互の間に存する相違を指示すると共に各階段は一事に於て相共通すとなし社會の多數を占むる勞働者がマルクスの言を借りて云へば勞働者を壓迫し掠奪するの外更らに他の能事なき少數者の爲めに支配せらるとの事實を擧げたるは既述の如し若し斯る事實にして過渡的のもの稀有的の現象ならんか其理由を擧げてマルクスが特殊なる一國の歷史に就きて擧示せるが如き偶然なる事情に歸し得可しと雖事實は卽ち其然らざるを證するなり蓋し奴隸制度を經て今日に至る間に於て凡の文明國の社會は幾度か解體し幾度か再造せられ變遷を重ねたれども少數者が多數者たる勞働者を支配するの此事實は何時の世如何なる社會にも行れて變ずるとなかりしが故なり勿論少數者は其間に於て其動行を變ぜり然れども此事實は以て彼等が常に支配者たるの地位に立ちたるの事實を否定し得可きにあらず顧ふに斯る一般的事實に對しては亦た一般的原因の存するなくんばあらざるなり然らば其一般的原因は何ぞや問ふて此處に至ればマルクスの科學は默々として啞者の如きなり

次に上述の問題の如く然かく重要ならずとするも然かも直ちに吾人の視聽を劫かし來る問題を擧ぐれば卽ち左の如し。

資本主義が主たる制度となりしより以來卽ち十八世紀の中葉以後富の生產が未曾有の增加をなせるの事實はマルクスを初め凡の社會主義者の認め且つ主張する所なり然るに資本主義の確立とは生產者と生產用具との分離の完成を意味すとはマルクスの與ふる定義なり故に吾人は富の生產は生產用具と生產者との分離が完成するに從ひて增加せりと云ひ得可きなり然るに亦た勞力こそ富の唯一

實の生產者たるなれとはマルクス等の說く所なるが故に結局吾人は勞働者の生產力は彼等と生產用具との間の分離が完成せる比に應じて增加せりとの結論を演釋し得可し此結論は何によりて說明せらるゝやマルクスは曰く資本は日に益々大となり行く而して此資本は勞働生產物の剩餘にして勞働者が生產すると同時に彼等より掠奪せられたるものなりと然らば資本增加すれば剩餘も亦た增加せざるべからざるの理なり然れども剩餘は何故に增加するや全部は其一部を取る者あるが故に增加すとは數理にあらざるなり資本は掠奪の報酬なりとなすマルクスの說が資本は禁慾の報酬なりとなす說に比して劣るとも優るなきの理又た以て見る可き也。

要之マルクスは經濟學者が未だ開拓せざる新天地に吾人を導けり然れども彼の道には答解に苦む難問の累々として橫るを見るなり然れば彼が吾人に致せる眞個の功績は唯是等の問題を吾人の視聽に觸れしめし點のみ然れども吾人は此事既に容易の業にあらざりしを知る吾人は問題を知るは問題を解する第一着步たるを知る也。

最後に吾人が此論に於て目的とする所は之等の諸問題が秩序的に考察せられんとする曉に至らば必ず現る可き最も普通なる眞理の大體を讀者に紹介せんと欲するに在るなり。（未完）

コオトシヤタア

小山內薰

倫敦の町外れに「コオトシィアタア」と云ふ芝居が實在してあるので御座います、「コオト」と云ふのは御所、宮殿とでも譯せば譯すので、是れは芝居の名前で御座います、所が此「コオトシィアタア」と云ふ言葉が今日の英吉利の進むだる文學者或は劇評家或は進むだ役者の間に、一つの新らしい演劇運動の名として、みんなの頭に刻み付けられるやうになつて居る、夫れは極く僅か前から始つた事で御座いまして、千九百〇四年に起つた